

土壌病害抵抗性をもつパプリカとトウガラシ用台木新品種 「L4 台パワー」、「台ちから」

わが国のピーマン類の栽培において、株の萎凋（しおれ）を引き起こす青枯病および疫病は大きな被害を及ぼす土壌伝染性病害です。これらの病害を回避するため通常、抵抗性の台木に接ぎ木が行なわれています。しかし、ピーマン類の接ぎ木栽培では、台木と穂木のトバモウイルス抵抗性遺伝子が同じタイプでないと、このウイルスに感染した場合、穂木が萎凋・枯死することがあります。これまで、トバモウイルス抵抗性遺伝子が主要なピーマンと同じ L^3 を持つ台木用品種はありましたが、パプリカの主要な品種と同じ L^4 を持つ台木用品種や在来トウガラシと同様にトバモウイルス抵抗性を持たない台木用品種はありませんでした。

そこで、農研機構野菜茶業研究所では青枯病および疫病抵抗性を有し、 L^4 を持つパプリカ用台木新品種「L4 台パワー」、トバモウイルスに対する抵抗性を持たないトウガラシ用台木新品種「台ちから」を開発しましたので、その概要を紹介します。

☆ 技術の概要

1. 「L4 台パワー」および「台ちから」は青枯病および疫病に対して強い抵抗性を示します。
2. ピーマン品種「京鈴」を穂木とし、「L4 台パワー」および「台ちから」を台木とした接ぎ木栽培での収量は、「台パワー」(野菜茶業研究所が 2008 年に育成したピーマン用台木品種)を台木とした場合および「京鈴」の自根栽培とほぼ同等です。
3. 「L4 台パワー」および「台ちから」はともに、発芽の早さ・揃いおよび幼苗期の生育が「台パワー」と同等またはやや優れるため、容易に接ぎ木ができます。
4. トバモウイルスに対して、「L4 台パワー」は抵抗性遺伝子 L^4 を持ち、「台ちから」は抵抗性遺伝子を持ちません。



図1 新品種の草姿

(左：L4 台パワー 右：台ちから)

表1 L4 台パワー、台ちから、台パワーの病害抵抗性
および適する穂木用品種の比較表

品種名	青枯病抵抗性	疫病抵抗性	ウイルス病の抵抗性遺伝子	適する穂木用品種
L4 台パワー	強	強	L^4	L^4 を持つ品種 赤色パプリカの主要品種「スペシャル」 黄色パプリカの主要品種「コレッティ」
台ちから	強	強	なし	トバモウイルスに対する抵抗性を持たない品種 甘長トウガラシ品種「伏見甘長」 トウガラシ在来種「かぐらなんぼん」
台パワー	強	強	L^3	わが国の主要なピーマン品種

☆ 活用面での留意点

1. 「L4 台パワー」および「台ちから」は、農研機構と利用許諾契約を締結した民間種苗会社等から販売される予定ですが、販売が開始されるまでの間は、野菜茶業研究所と「原種苗提供契約」を締結のうえ、有償で種子が提供されます。

(日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 吉岡 宏)